

労働災害事故事例 報告書

死傷負傷事故・ひやりはっと実態調査

(平成31年4月～令和2年3月)



一般社団法人東北測量設計協会では平成7年度に事故防止委員会を設置し、労働災害の防止を目的として活動が続けて参りました。平成26年度からは、「労働災害アンケート調査」として年度毎に会員の皆様から広くアンケート調査をお願いしております。

今回の調査は、前回調査に引き続き90%以上と過去最高の回収率となりました。これも会員の皆様の労働災害防止意識の高さと、会員相互の意識の共有化に対して前向きにお考えいただいたことによる結果だと感謝申し上げます。幸い、今回の調査でも重大事故（死亡事故）の発生は無く、各会員の皆様の安全管理が徹底されていると思われます。

負傷事故については、例年多い転倒・転落事故の件数が増加傾向にあります。これについては社内で検討し、防止対策が望まれることがわかりました。

物損事故については交通事故の件数が多く、報告内容として重大化しそうな報告も散見されるので、さらなる事前のKY活動などの対策で減少する必要があると思われます。

ヒヤリハットも多くの報告をいただきました。これは会員各社様のヒヤリハットに対する重要性、位置付けによる表れが報告の増加になっていると思われます。報告内容としては、例年転倒・転落の件数が多く、特に交通事故件数の増加が懸念されます。また、UAV（ドローン）については災害や一般業務での活用が進む事から、今後注視していかなければならないと思われます。これらの事例を参考に事故減少への一助としていただければと思います。

技術委員会では、引き続きこれらの事例を会員の皆様で共有することによって、事故ゼロを目指していきたいと考えております。今後も、軽微な事例でも大きな事故を未然に防ぐための抑制効果として情報提供して参りますので今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回のアンケート調査にご協力を賜りました会員の皆様にお礼を申し上げますとともに、アンケートの集計に協力いただいた委員の皆様はじめ事務局、他委員会の皆様に併せてお礼を申し上げます。

令和2年9月1日

一般社団法人東北測量設計協会

技術委員会委員長 海藤 剛

1. アンケート回収率

	第11回調査			第10回調査		
	平成31年4月～令和2年3月			平成30年4月～平成31年3月		
	会員数	回答数	回収率	会員数	回答数	回収率
青森県	10	9	90.0%	10	8	80.0%
岩手県	10	10	100.0%	10	10	100.0%
秋田県	9	7	77.8%	9	7	77.8%
宮城県	10	10	100.0%	9	8	88.9%
山形県	14	13	92.9%	14	13	92.9%
福島県	11	11	100.0%	11	10	90.9%
計	64	60	93.8%	63	56	88.9%

今調査も93.8%と前回に引き続き高い回収率となりました。会員の皆様にはこれからもご協力をいただき、労働災害防止の啓発をしていきたいと考えております。継続的にアンケート調査をいたしますのでご協力をよろしくお願いいたします。

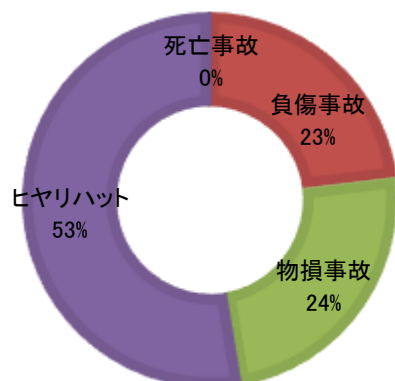
2. 労働災害の発生件数

		青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計
前回まで	死亡事故	0	2	2	1	0	1	6
	負傷事故	49	60	25	63	29	43	269
	物損事故	14	17	8	83	24	6	152
	ヒヤリハット	28	55	39	49	36	255	462
今回	死亡事故	0	0	0	0	0	0	0
	負傷事故	2	0	2	5	3	6	18
	物損事故	1	3	1	3	7	4	19
	ヒヤリハット	4	11	4	13	6	3	41

※前回までとは昭和50年～平成31年3月までの調査、今回とは平成31年4月～令和2年3月までの調査

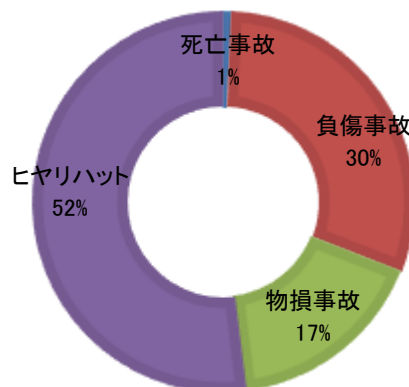
労働災害の発生割合（今回）

■ 死亡事故 ■ 負傷事故 ■ 物損事故 ■ ヒヤリハット



労働災害の発生割合（前回まで）

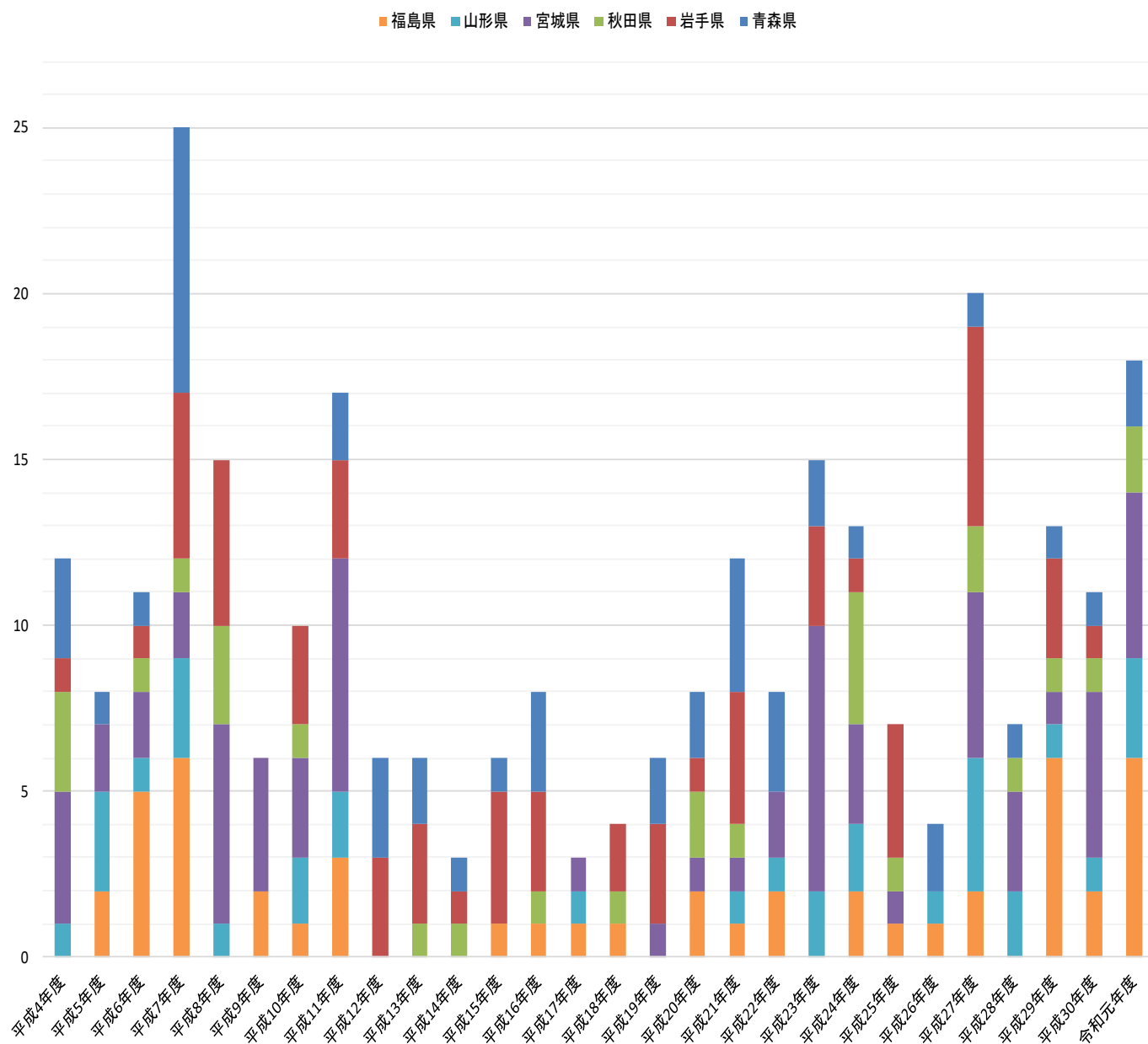
■ 死亡事故 ■ 負傷事故 ■ 物損事故 ■ ヒヤリハット



今回の調査でも死亡事故は発生しませんでした。労働災害件数はどの項目でも増加し、特にヒヤリハットの増加が目立ちます。

3. 負傷事故（労働災害）発生推移

負傷事故発生推移



※負傷事故は今年度と昨年度を比べると増加しました。

福島県は（2件→6件）に増加となりました。

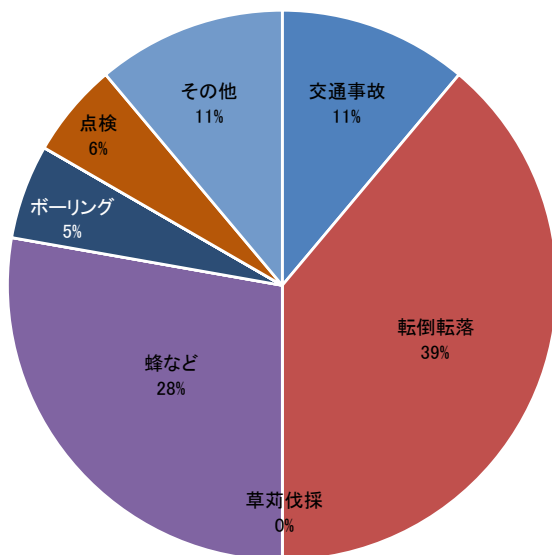
4. 負傷事故構成年度別

	交通事故	転倒転落	草刈伐採	蜂など	機材	ハンマー・杭	ボーリング	遭難事故	落雷感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成23年度	1	5	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4	15
平成24年度	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
平成25年度	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
平成26年度	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成27年度	2	1	1	10	0	2	0	0	0	0	0	0	4	20
平成28年度	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	7
平成29年度	0	3	2	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	13
平成30年度	0	5	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	11
令和元年度	2	7	0	5	0	0	1	0	0	0	0	1	2	18

今調査では、交通事故と転倒転落、蜂などによる負傷事故がそれぞれ2件増となりました。転倒転落事故については、ここ数年増加傾向にあるため注視する必要があると思われます。

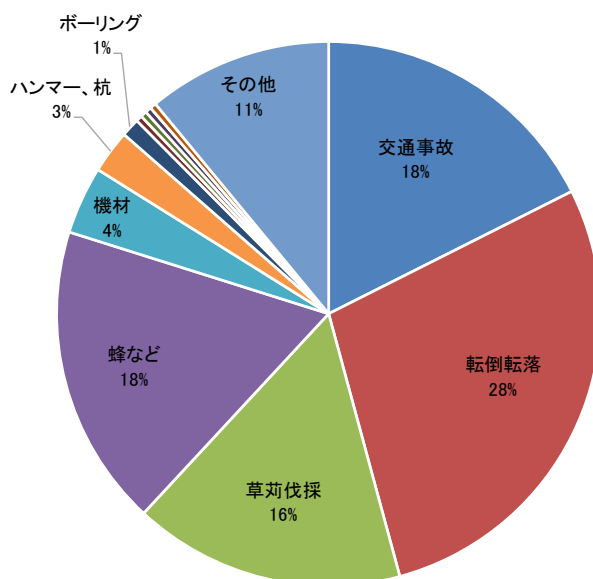
全体的には、前回調査と比べて7件増加していますので会員皆様の労働災害防止の啓発をお願いいたします。

負傷事故の構成割合
(今回)



■ 交通事故 ■ 転倒転落 ■ 草刈伐採 ■ 蜂など
■ 機材 ■ ハンマー、杭 ■ ポーリング ■ 遭難事故
■ 落雷・感電 ■ 落石 ■ UAV ■ 点検
■ その他

負傷事故の構成割合
(前回まで)



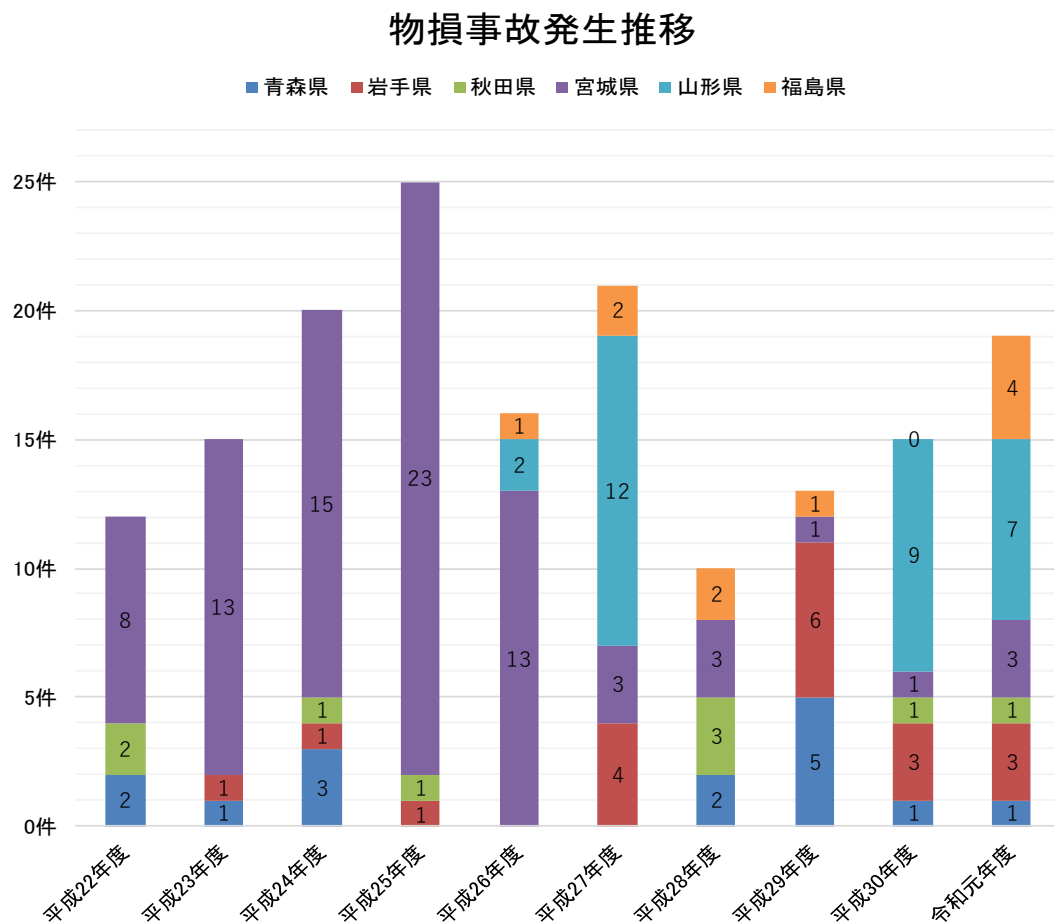
■ 交通事故 ■ 転倒転落 ■ 草刈伐採 ■ 蜂など
■ 機材 ■ ハンマー、杭 ■ ポーリング ■ 遭難事故
■ 落雷・感電 ■ 落石 ■ UAV ■ 点検
■ その他

※前回は昭和50年～平成31年3月まで、今回は平成31年4月～令和2年3月まで

5. 負傷事故（労働災害申請）おもな事例

所在	発生日	災害内容	発生概要及び原因
青森県	2019年7月24日	熊・蜂・蛇などによる事故	雑木伐採作業の待機中、右手小指を蜂に刺された。
秋田県	2019年5月16日	交通事故	現場から帰社中に交差点赤信号停車中に追突された。
秋田県	2019年8月5日	熊・蜂・蛇などによる事故	ナタガマ・草刈り機を使用して伐採中、2人が顔と手を蜂に刺された。
宮城県	2019年11月7日	転倒・転落事故	測量補助作業中に、路肩の大型樹に踏み込んで転倒し、右脚の膝内側を強打した。
宮城県	2020年2月12日	転倒・転落事故	災害測量現場（林道）を移動中、路上凍結に気づかず転倒し右肩を強打した。
宮城県	2019年10月10日	転倒・転落事故	地震復旧対策用に歩道内に設置した水位観測孔の蓋が、周辺地盤の沈下によりパイプが蓋を突き上げて若干空いた状態になり、その鉄蓋に住民がつまづき転倒した。
山形県	2019年6月20日	点検業務	施設の緊急点検のために森林内を歩行中、割れたピンを踏んで、右足かかとに刺さった。
山形県	2019年7月23日	ボーリング事故	ナタを使用して伐採作業中、左手甲の人差し指付け根を切る。
福島県	2019年8月1日	交通事故	現場からの帰社途中、片側交互通行規制に伴い停車中、後方より大型トラックが追突してきた。追突の衝撃で前方に押し出され、工事現場発電機に車両左前方が接触。
福島県	2020年1月17日	転倒・転落事故	社屋から駐車場に向かう途中、縞鋼板の網目に右足のつま先が引っ掛かり転倒した。

6. 物損事故発生推移



7. 物損事故構成年度別

	交通事故	転倒 転落	草刈 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
平成23年度	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
平成24年度	19	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20
平成25年度	23	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	25
平成26年度	15	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16
平成27年度	12	1	0	0	3	0	1	0	0	0	2	0	2	21
平成28年度	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	10
平成29年度	9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	13
平成30年度	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	15
令和元年度	9	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	2	4	19

物損事故の大半は、例年と変わらず交通事故となっており、特に安全確認不足による事故が報告されています。
交通事故を削減するためには、各会員の安全運転に対する取り組み実践が必要と考えます。

8. 物損事故事例

所在	発生日	災害内容	発生概要及び原因
青森県	2019年10月9日	点検業務	雑木伐採中に電柱からの引き込み線を手鎌にて切断した。
岩手県	2019年8月21日	交通事故	トンネル内で自損事故で停止していた車に気付かず追突してしまった。
岩手県	2019年10月1日	交通事故	車を駐車しようとして、バックした際に後部ドアを支柱に接触してしまった
岩手県	2020年3月25日	交通事故	現場作業終了後、車両移動する際に汚水枳（高さ60 c m）に接触。
秋田県	2019年11月18日	その他	測量鉋の打設時、融雪放熱管を損傷した。
宮城県	2019年10月20日	交通事故	東北自動車道を使って現場へ移動中、スリップして中央分離帯に衝突した。
宮城県	2019年10月9日	交通事故	駐車場に入る際、入口ゲートの券売機に運転席側前方部のバンパーが接触した。
宮城県	2019年10月29日	交通事故	駐車場に前向き駐車をした際に、コンクリート製の車止めにバンパー下のカバーを擦り、 駐車場からバックで出る際に、そのはずみでバンパー下カバーが路面に接触した状態でめくれ上がった。
山形県	2019年9月2日	点検業務	橋梁点検作業中、自社点検車両を後退した際に木の枝がプラットホーム保護材に押付ける状態になり保護材が損傷した。
山形県	2019年10月14日	交通事故	車両のUターン時に切り株に気づかずぶつかり、バンパーを破損させた。
山形県	2020年3月5日	吹雪・雷・ 竜巻・豪雨	突風により、レベルが倒れ、破損した。
山形県	2019年12月9日	交通事故	コンビニの駐車場からバックで出る際、駐車していたワゴン車に衝突した。
山形県	2019年8月2日	立木伐採・草刈等 による事故	刈り払い機を作業車から落下させた。
山形県	2019年4月12日	ボーリング事故	県道路肩部にてボーリング試験で掘進中に水道管を破損した。地下埋設物は既存図面で確認していたが、位置を見誤り試験箇所には水道管がないと考えていた。
福島県	2019年10月31日	その他	現場へ向かう途中、対向車とすれ違う際に、左サイドミラーが住宅の生け垣に接触。 停止せずに帰社した所サイドミラーの下に付いていたアンダーミラーを紛失していた。
福島県	2019年11月28日	その他	現場で車両移動の際、迂回ルートの指示を受けていたが、最短ルートである未舗装、かつ台風による河川氾濫時の土砂が堆積した狭い下り急勾配の農道を移動ルートとしたが、農道に侵入して間もなくハンドル操作が困難となり、すべり降る形で隣接していた農地に車両左側が転落。結果、タイヤが空回りし自走困難となり救助要請した。
福島県	2019年12月20日	UAV	災害写真撮影後、着陸時の操縦ミスにより、離発着地点近傍の木に接触し墜落した。
福島県	2019年10月9日	その他	点検対象となる橋梁を探しながら運転していたが、探すのに気を取られ、結果的によそ見運転となり、タイヤが縁石及びデリネーターに衝突した。

9. ヒヤリハット報告件数

	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	計(件)
平成22年度	1	0	0	0	0	0	1
平成23年度	1	0	0	0	0	0	1
平成24年度	1	2	3	2	0	2	10
平成25年度	0	0	2	3	0	3	8
平成26年度	1	1	3	6	5	5	21
平成27年度	0	2	5	6	2	7	22
平成28年度	5	13	8	7	5	6	44
平成29年度	3	11	6	4	1	4	29
平成30年度	2	6	4	8	3	3	26
令和元年度	4	11	4	13	6	3	41
県別合計	18	46	35	49	22	33	203

ヒヤリハットとは重大な災害や事故には至らないものの、直結してもおかしくない一手手前の事例の発見を行います。文字通り「突発的な事象やミスにヒヤリとしたり、ハッとしたりするもの」です。

今年の調査では41件の報告があり、昨年の26件から大きく増加しました。

内容は、交通事故につながる事例が8件、転倒転落が同じく8件で最多となっています。いずれも「不注意」による事例が報告されましたが、全て大事には至りませんでした。再発防止策に記載がありましたが、交通事故については、時間に余裕を持ち、車間距離をあげ、事故を予測した安全運転を心がける事。転倒転落については、安全帯による安全確保は基より、周囲の状況を注視し、準備作業として事故の可能性について確認し合うなど、チーム（班）での注意喚起を行いう事が必要であると報告がありました。

また、蜂は昨年2件から大きく増加し、UAV（ドローン）は昨年より微増となっています。巻頭文にもありました通り、UAVについては業務での活用が進む事から、より一層の注意が必要です。会員皆様には常に「危険かもしれない」という高い意識を持ち、危険予知行動を身につけていただきたいと思います。

些細なヒヤリハットを見逃さずにしっかりと防止する事で、重大な事故を未然に防ぐ事が出来ます。いずれも、日頃のKY活動で防ぐ事が出来る内容である為、会員皆様の職場での周知徹底をお願いいたします。

10. ヒヤリハット構成

	交通事故	転倒 転落	草薙 伐採	蜂など	機材	ハンマー 杭	ボーリング	遭難 事故	落雷 感電	落石	UAV	点検	その他	計(件)
令和元年度	8	8	1	7	0	0	1	0	1	1	4	1	9	41

1 1. ヒヤリハット報告事例

報告されたヒヤリハットの中から9例報告します。

所在	発生日	発生概要
青森県	2019年9月4日	<u>斜面を木につかまり登ろうとしたところ、木が折れて後ろに転倒しかけた。</u>
		●発生時の状況 けががないことを確認し、木につかまることの危険性を確認した上で作業を続行した。
		●反省点 斜面を登るうえで、木につかまることの危険性に対する認識が薄かった。
		●再発防止策 斜面を登るときは木に頼らないようにし、急傾斜で登坂が困難な場合は他の緩傾斜のルートを選択する。また安全帯（ハーネス）を積極使用することとした。
青森県	2019年9月12日	<u>照明のない畦道で側溝に脱輪した。</u>
		●発生時の状況 発生直後、会社に報告し会社からの応援車両でけん引した。
		●反省点 草が深く、側溝を轍と勘違いし、走行した。
		●再発防止策 見通しが悪い場合は、同乗者が目視で確認する。
岩手県	2020年2月18日	<u>トンネル内を走行中、出口付近手前で、急に工事の誘導員が接近して接触しそうになった。</u>
		●発生時の状況 出口付近はカーブになっていて、カーブの先で工事をしていて。誘導員が車両を止めようとして飛び出してきた。
		●反省点 上り坂の追い越し車線を走行していたため、「トンネル内工事中」の看板を見逃していた。
		●再発防止策 事前に走行ルートの道路情報や工事情報の確認をしておく。トンネル内のカーブは特にも速度に気を付けて走行する。状況に応じて、ハイビームに切り替えて走行する。

所在	発生日	発生概要
秋田県	2019年12月2日	<u>橋梁点検車を使用しての橋梁点検が終了し、デッキを格納する際、アームが電話線に接触した</u>
		●発生時の状況 交通誘導員が気づき操作員に素早く知らせた為、すぐに操作を止め、接触しない箇所まで移動してからデッキを格納した。
		●反省点 作業開始時は電話線に触れないよう注意して操作していたが、作業終了時には電話線の事を忘れており、注意を怠った。
		●再発防止策 現地踏査時点で架線の有無を確認し、架線がある現場では見張り員を配置するように徹底する。
宮城県	2019年6月22日	<u>夜間の橋梁調査のための交通規制帯設置中、誘導員が通行車両と接触しそうになった。</u>
		●発生時の状況 カラーコーンを設置中であったが、落ちていた小石を踏みつけバランスを崩し車線側にふらついてしまった。誘導員を配置しながら資材の設置を行っていたため、走行車両は速度を落として走行していた。その後の作業は、足元や通行車両に十分に注意しながら作業を続けた。
		●反省点 ・足元に小石が落ちていると思わなかった。 ・降雨後でもあり見つけにくかった。
		●再発防止策 設置範囲の全体を見渡し落下物、障害物がないかどうかの確認を徹底し、設置前に数名の目でライトを使用し再確認を行う。
宮城県	2020年2月21日	<u>雪解け道を走行していたら前走車を走行する水しぶきでフロントガラスが汚れウォッシャー液を使用しようとしたが、使いきり噴霧されず視界が悪くなった。</u>
		●発生時の状況 水しぶきがかからないよう車間距離を十分取り、最寄りのコンビニエンスストアにて社用車に常備していたウォッシャー液を補充した。
		●反省点 打合せ後の運転前に、ウォッシャー液の残量を確認すべきであった。
		●再発防止策 雪解け道では、前走車の跳ね返り等でフロントガラスが汚れ易いため、運転前にウォッシャー液の残量確認を行い、車間距離を通常より確保して走行する。

所在	発生日	発生概要
宮城県	2020年3月13日	<u>コンビニの駐車場へ入るために左折しようとした際、ハンドル操作をわずかに誤り、フロントバンパーが歩道の縁石に接触し約5cm割れた。</u>
		●発生時の状況 UAV撮影が無事終了し、安堵感と疲労感があり、集中力を欠いていた。歩道に通行者がいれば、事故になる危険があった。
		●反省点 現場駐車場の車内で十分な休憩を取り、体力が回復してから運転を開始するべきだった。
		●再発防止策 自身の体力に合わせ運転開始前に十分に休憩し、気持ちに余裕をもってから運転する。
宮城県	2020年3月22日	<u>河川測量を行う際、川を渡ろうとして玉石に足を上げたところ、滑って転びそうになった。</u>
		●発生時の状況 現場は、水深が20cm程度と浅く渡りやすいが、玉石がごろごろしており滑りやすい状況であった。滑って手をつきケガには至らなかった。
		●反省点 危険性はないだろうという、過信があった。
		●再発防止策 作業前に、事故の可能性について確認し合い、滑り止めのついた靴をはくなど準備を十分に行う。
山形県	2019年5月31日	<u>測量作業時に熊と遭遇した。</u>
		●発生時の状況 水準測量の固定点選定、設置で移動しながらの作業で熊と遭遇した。
		●反省点 車で移動しながらの作業であったため、周囲への注意が足りなかった。
		●再発防止策 山間部では、車両移動による作業でも熊鈴や熊ホーン等の対策グッズを携帯し注意する。